

施策	23	高等教育の充実	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり		
施策主管課	学校教育課	課長名	北原康彦	内線	3710	政策担当部長名	教育次長 三浦伸一
施策関係課名	生涯学習・スポーツ課、公民館、図書館、美術博物館、産業振興課、企画課						
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画					

1 施策の目的

目的	対象	大学生、高校生、短大生、専修学校生
	意図	学ぶ機会が得られる

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
① 市内中学校を卒業した数	人	1,048	1,000	1,047	1,036	1,062	1,037	1,070		
成果指標 ※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
① 高校・大学進学率 ア) 高校進学率 イ) 大学進学率(短大含む) ウ) 専修学校進学率	%	ア)99.6 イ)49.5 ウ)22.5	ア)98.2 イ)48.9 ウ)20.6	ア)99.2 イ)46.9 ウ)22.3	ア)98.6 イ)48.9 ウ)19.7	ア)98.2 イ)47.1 ウ)20.6	ア)99.6 イ)46.9 ウ)21.9	ア)99.5 イ)47.3 ウ)20.2	ア)99 イ)54 ウ)23	○
② 高校生活に満足している人の割合	%	-	-	72.0	-	-	77	-	70	◎

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向	
行政	市(国・県) ・進学する人への経済的な支援 ・私立学校への財政的な支援	①市で奨学金の貸与を行っている高校生及び大学生の数(人)	73	73	80	82	76	90	◎	
		②財政的な支援を行った私立学校の数(校)	1	1	1	1	1	1	○	
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)							
市民等	個人	高校、専修学校、大学(短大含む)への進学	進学率	過去5年間、高校進学率は、98～99%、大学(短大含む)進学率は50%弱、専修学校進学率は20%前後で推移しており大きな変化はない。各々が目的をもち主体的に進路選択が来ていると考えている。						
	教育機関	ニーズにあった教育を実施する	在学している学校に満足している人の割合	3年に1回の高校生調査から、高校生生活に満足している割合が64・68・72・77%と上昇しており、高校へのアプローチの結果と判断してる。						
	民間育英会(任意団体)	進学する人への経済的な支援	民間の奨学金を利用した人数	平成28年度貸与で民間育英会が貸与した奨学生数の累計が1,039人となり、1,000人を超えた。また、継続的に原資の増額(寄付)をいただき、奨学金枠の拡大に貢献をいただいている。						

役割の発揮状況

後期(5箇年)	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 奨学金貸与では、3民間育英会と飯田市が協働し、飯田市奨学金貸与審査委員会を組織し、連携した取り組みを行っている。 民間育英会と協働し、奨学金償還期間中に飯田市に居住した場合の償還金一部免除を行い、免除分は飯田市が補てんを行っている。 その他、他施策において、公民館で飯田OIDE長姫生対象に行う地域人教育、また、全高校対象のカンボジアスタディツアー、各地区公民館が行う各高校の生徒を講師とした各種講座を行い、高校生の地域理解、地域愛、地域貢献人材の育成を行っている。(施策29ふるさと意識の醸成)また、学輪IIDAの取組の中で地元高校生を対象とした大学の講義を行っている。
	多様な主体の協働を推進していくための課題	<ul style="list-style-type: none"> 現在飯田市では、小中連携・一貫教育を行っているが、こうした取り組みを中高でも行うことが効果的ではないかと考えているが、まずは小中連携・一貫教育を全校で定着したうえで、効果等を検証しながら進める必要がある。 飯田市で所管する学校は、小中学校であり、高校・短大は県立及び私立である。こういった高校を所管する県教委及び私立学校と連携を図っていく必要がある。 高校生の約7割が大学等へ進学者し、地元就職と進学後のUターン就職は合わせて約4割しか戻ってこない実態がある。

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

<p>この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒が将来に向けて学べる環境を保障し、地域の企業との連携のとれた人材育成をさらに強化されたい。 ・奨学金制度の拡充と篤志寄付を募る取り組みも検討されたい。 ・飯伊8高校へキャリア教育の展開をされたい。(以上H27議会行政評価提言) ・人形劇などをとおして、高校生がボランティアとして活躍できる場面をつくつたらどうか。 ・遠距離の高校通学に対して助成を行つたらどうか。(以上PTA役員会) ・家庭の経済状況の厳しい中、奨学金貸与制度は子供や保護者に夢と希望を与えている。特に家庭の経済状況の厳しい子弟が大勢貸与を受けられるよう広報を一層進めてほしい。(以上:校長会)
<p>施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が減少傾向となっている。 ・国県では貧困対策等において、給付型の奨学金が検討されている。

4 評価結果(後期5箇年)

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

【評価結果の理由】

○施策の事務事業である、奨学金貸与事業及び飯田女子高等学校支援事業は、それぞれ計画どおり実施できており、成果指標である高校進学率はほぼ目標通りで、大学進学率はやや下回っている。このため、おおむね計画通りである。

【事務事業群テーマ別の評価】

<教育環境の充実>

○「飯田女子高等学校運営支援事業」は飯田市及び下伊那郡内の関係町村が、一定のルールに基づき、負担金を交付し、同校の円滑な学校運営に貢献している。

<教育内容の充実>

○23施策以外において

・飯田市民館では、進学や就職など、人生の大きな岐路を迎えた高校生に対し、ふるさと飯田を学び、いったん飯田を離れてもいつかは地域の担い手として戻ってくる「人材のサイクル」を実現するために、松本大学と連携し、飯田OIDE長姫高校、商業科生徒を対象とした「地域人(地域を愛し、地域を理解し、地域に貢献する人)教育」の一環として、平成24年度から取組みを進め生徒による課外活動グループも誕生し、生徒主体のまちづくりの取組みに発展している。また、25年度からは、高校生対象のカンボジアスタディーツアーを実施し、飯伊地区の高校生が参加し、異文化に触れて、ふるさとや自らの生き方を考える学習を行った。これらの取組みに関わる高校生たちが高校を越えて結びつき、まちの活性化や18歳選挙権を考える学習会やイベントなど、高校生たちによる主体的な取組が広がっている。

・地区公民館において、山本公民館では阿智高校と連携協定を結び、地域行事に積極的に生徒たちが参加するための仕組みづくりを進めているほか、上郷公民館では飯田高校天文班、競技かるた班の生徒を講師とした親子天文講座、飯田女子高校郷土料理クラブと地区郷土料理を考える会が連携し野底山森林公園祭に出展参加など、高校生と地域を結びつける取組みが広がっている。

その他の社会教育機関でも、中央図書館では下伊那農業高校の保育講座、美術博物館では、飯田高校理科数科のグループでの課題研究協力などを行った。・飯田市キャリア教育研究委員会において、飯伊地区の高校のキャリア教育担当教諭の出席を得て、小中校が連携したキャリア教育の推進に向けた情報交換・意見交換を行った。

<教育機会の提供>

○飯田市及び民間育英会が協働し、飯田市が奨学生を一括で募集し、審査のうえ概ね50人に対し、それぞれ分担し奨学金を貸与している。(大学生3万円/月、高校生1万円/月)

○償還期間中に飯田市に居住した場合は、償還額の3分の1(上限年6万円)を償還免除とし、Uターン促進を行っている。平成20年度に制度開始し、平成28年度は105人568万円余の免除を行った。なお、民間育英会が行った免除に対しては、飯田市が相当額を補てんしている。

<高大連携の取組>

○23施策以外において

・平成26年度から学輪IIDAの大学研究者などを講師に、地元高校生を対象とした大学講義を、飯田高校、飯田風越高校、飯田OIDE長姫高校の3校で実施し、高校生が大学研究者の講義に触れる機会により学習意欲の向上や視野の拡大、地域の価値の再認識の機会となった。

・学輪IIDAのフィールドスタディ等を通じて、学習や研究活動で飯田を訪れる大学生と地域課題研究に取組んでいる高校生等との学習交流の機会を設けた。(飯田風越高校生と東京大学・法政大学の大学生)(飯田高校生と東京大学)(飯田OIDE長姫高校生と東京大学)

・ロンドンビジネススクールの来訪にあわせ、京都外国語大学の大学生、飯田風越高校生等との交流の機会を設けた。

6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

○この施策で実施する事業は2事業であるが、対象が高校生・大学生等であり、引き続きこれらの事業を実施していく。また、他の施策とも関係が深いことから、連携し引き続き事業が発展するよう取り組んでいく。

<教育環境の充実>

○「飯田女子高等学校運営支援事業」は下伊那の町村と連携した支援策であることから、引き続き実施していく見込みである。

<教育内容の充実>

○公民館等の社会教育機関では、いったん飯田を離れてもいつかは地域の担い手として戻ってくる「人材のサイクル」を実現するために、高校生や大学生を対象とした学習機会を、広げて行く。

<教育機会の提供>

○奨学金貸与事業では、経済的に教育の機会を支援するものであることから、継続して実施してゆく。また、償還時に飯田市に居住する場合の償還一部免除についてもUターン促進のため継続し実施していくとともに、制度の広報を行い制度の活用を図る。

○また、地域を担う人材確保のための新たな奨学金制度の研究を行う。

<高大連携の取組>

○学輪IIDAでの取組みを継続して実施していく。